



## 目標（1）協働推進

# 高浜市に暮らす誰もがずっと住み続けたいと思い、 しあわせを感じられるまちをつくります

### この施策が目指すまちの姿

- ◇高浜市に暮らすみんなが、まちの課題や目標を共有しています。
- ◇自分のためだけでなく、誰かのために自分ができることで、まちのために活動することで、みんながゆるやかにつながっています。
- ◇まちづくりに参加したい、まちのために挑戦したいという人が気軽に参加・挑戦でき、将来のまちづくりを担う人材が増えています。

### この目標分野の現状と課題

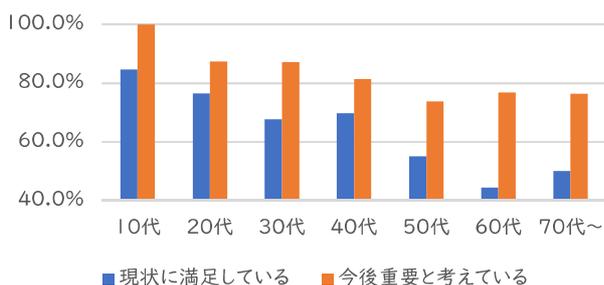
#### 《現状》

- ◆地域活動の活性化とコミュニティの形成について若い世代ほど重要と考えているが、50代以上で現状に対し満足していないが、重要とも考えていない傾向にある。
- ◆10代・20代は高浜市に住み続けたいという意識が他の年代より低く、10代・40代でまちへの愛着が他の年代より低い。
- ◆20代は、転入、転出者数が他の年代よりかなり多いことから、居住年数が少なく、まちへの愛着（シビックプライド）が醸成されにくい状況であると考えられます。
- ◆深いつながりや負担を要するコミュニティに属することを望まない方も多い。
- ◆かつては協力・助け合わなければできなかったことが、民間サービスや技術の進歩により、個人で解決できるようになった。
- ◆地域団体の加入率が低下する中、役員の成り手不足も深刻化している。

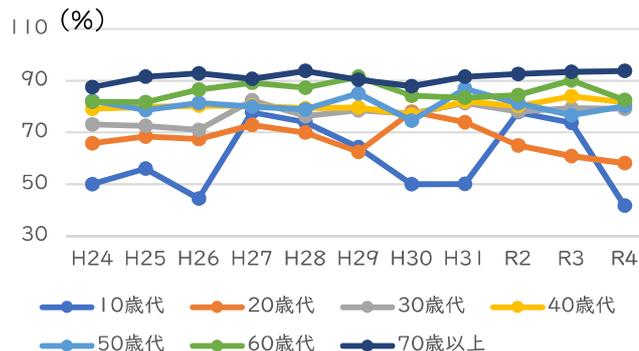
#### 《課題》

- ◇ゆるやかにつながれ、いざという時には協力し合える風土をつくる必要があります。
- ◇特に若い世代に対するシビックプライドの醸成を促進する取組み（応援・きっかけの創出）が必要です。
- ◇時代の流れにあわせて、地域のデジタル化についても進めていく必要があります。
- ◇災害などいざという時はアナログな助け合いが必要です。
- ◇まちづくりの担い手育成や発掘に取り組んでいく必要があります。

地域活動が活発で良好なコミュニティの形成に関する意識



高浜市に長く住み続けたいと思う人の割合



## こんなことに取り組みます

### ■まちの課題や目標を共有します

- ・高浜市の目指す将来都市像とその意味を積極的に発信します。
- ・まちの課題について語り合い・共有する場を創出します。

### ■誰かのため、まちのために活動する人や団体、企業を応援します。

- ・時代にあったコミュニティ活動のあり方を市民・地域団体と一緒に考えます。
- ・若い世代のちょっとした挑戦を応援できる仕組みの構築など、既存の支援制度を見直し、より効果的な支援を行います。
- ・町内会やまちづくり協議会活動、企業の地域貢献活動などを積極的に発信していくことで、コミュニティ活動への参画促進を支援します。

### ■まちづくりに気軽に关われる仕組みや風土をつくり、人財を育みます。

- ・まちづくりに関わるインセンティブの付与、活動の発表会やコンテストなど、まちづくりに興味・関心を持っていただける仕組みを構築します。
- ・デジタル技術の導入など活動の負担軽減を図れる仕組みを協働で研究・実施します。
- ・定年延長など地域に関わる年齢が高齢化する中、働きながらでも地域デビューできるきっかけづくりや意識啓発を行います。

## 目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)
		▶
		▶
		▶

〔関連する個別計画等〕





## 目標（2）多文化共生

誰もがお互いを理解し合い、  
地域の一員として支え合い、活躍しています

### この施策が目指すまちの姿

- ◇日本人市民と外国人市民がお互いの国籍や文化の違いを理解し、認め合い、外国人市民も地域の一員として助け合い、活躍しています。
- ◇性別や考え方の違いなどの多様性を理解し、認め合い、高浜市に暮らすだけれども、お互いを尊重し合えるようになっていきます。

### この目標分野の現状と課題

#### 《現状》

- ◆年々外国人住民の方が増加し、総人口に占める外国人割合が8%を超えるなど愛知県内自治体で最も高い人口比率（令和3年6月末時点）となっています。
- ◆令和3年7月に多文化共生コミュニティセンターを開設し、外国人住民に対する一元化相談窓口の設置や初期日本語教室などに取り組んでいます。
- ◆外国人と日本人の相互理解の意識に差が生じています。
- ◆性的マイノリティの方々をはじめ、すべての市民の人権を尊重し、多様な生き方を互いに認め合う社会の推進のため、令和4年4月よりパートナーシップ宣誓制度を制定しています。

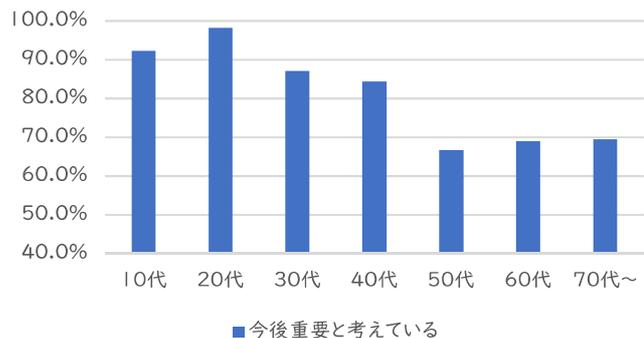
#### 《課題》

- ◇日本語も母語もたどたどしい世代の発生や多国籍化による情報発信ニーズの多様化といった新たな課題の発生や今後は外国籍住民の高齢化など、今後、さらなる課題が発生してくることが想定されます。
- ◇LGBTをはじめとしたさらなる人権尊重の意識啓発を積極的に取り組んでいく必要があります。

外国人住民の推移



多文化共生に関する意識



## こんなことに取り組みます

### ■多様性を認め合い、誰もが暮らしやすい環境をつくります。《環境づくり》

- ・国籍に関わらず暮らしやすい環境をつくるため、市からの情報を多言語及びやさしい日本語で提供するとともに、外国人市民の状況把握や相談支援等を充実します。
- ・外国人市民が生活していくために必要な日本語やルールなどを学ぶ機会を充実します。
- ・性別や考え方の違いなど関わらず暮らしやすい環境をつくるため、パートナーシップ制度など、価値観を認め合う環境を整えます。

### ■多文化共生社会の実現に向け、一人ひとりの意識を高めます。《意識向上》

- ・外国人市民と日本人市民の相互理解や多文化共生についての理解を深めるため、日本人市民と外国人市民の交流機会や学習機会を充実します。
- ・多文化共生コミュニティセンターの機能強化を図り、さらなる活用を促進します。
- ・多様性を認め合う多文化共生に関する講演会や研修会の実施などによる意識啓発に努めます。

### ■外国人市民の社会参画を促進します。

- ・外国人市民が主体的にまちづくり活動に関わることができるよう、外国人市民へのまちづくりに関する情報提供と参加促進に努めます。
- ・外国人市民と地域をつなぐ人材育成および人と人をつなぐネットワークを構築します。

## 目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)
		▶
		▶
		▶

【関連する個別計画等】





### 目標（3）DX（デジタルトランスフォーメーション）推進

#### 時間と場所を選ばない行政サービスを提供します

##### この施策が目指すまちの姿

- ◇市民が時間と場所を気にせず必要な手続きを行うことができています。
- ◇業務の改善・効率化で浮いた人的資源を市民一人ひとりに寄り添ったサービスの強化に繋げることができています。
- ◇各種相談や面談が必要な手続きなど、どうしても市役所に行かなければならない時でも、効率的なデジタル窓口が実現しています。
- ◇市民が安心して情報提供できるセキュリティシステムが構築されています。

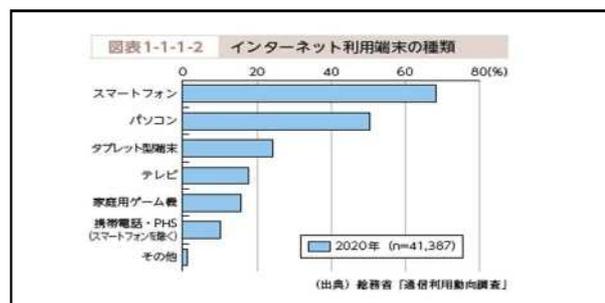
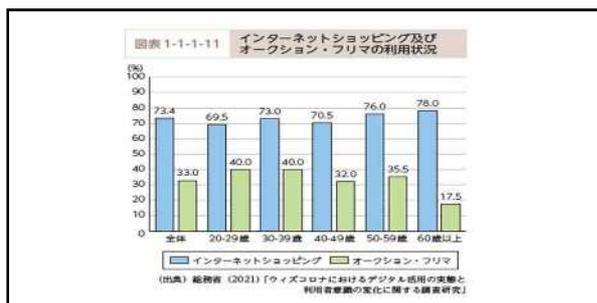
##### この目標分野の現状と課題

###### 《現状》

- ◆国の「自治体デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画」により全ての市町村に対して足並みを揃えて「情報システムの標準化」や「行政手続きのオンライン化」が求められています。
- ◆インターネットサービスの利用者が各世代で増加しています。
- ◆セキュリティ脅威（情報搾取や不正行為、詐欺、情報漏洩など）が高度化、複雑化しています。

###### 《課題》

- ◇情報システムの標準化に併せAIやRPA（ロボティクス・プロセス・オートメーション）などの新技術の導入により業務の効率化や適正な執行に図る必要があります。
- ◇市民が時間と場所を選ばず行政サービスを受けられるよう行政手続きのオンライン化を進める必要があります。
- ◇各種相談や面談が必要な手続きなど、どうしても市役所に行かなければならない時、市民の負担軽減や利便性の向上を図るため、書かない・待たない・行かないデジタル窓口の実現が必要です。
- ◇市民情報を守るためのルールづくりや情報管理体制など、セキュリティの強化を進める必要があります。



## こんなことに取り組みます

### ■情報システムの標準化と効率化を実現します。

- ・住民基本台帳、介護保険、税、国民健康保険、年金、選挙人名簿など市民に身近な手続きについて情報システムの標準化と事務の見直しに取り組みます。
- ・他の自治体と連携しながらAIやRPAなど、新技術による業務効率化の実現に取り組みます。

### ■行政サービスのオンライン化を実現します。

- ・引越や子育て関係、介護関係などの手続きについて、普及率の高いスマートフォンでも手続きできるよう行政サービスのオンライン化の実現に取り組みます。

### ■書かない・待たない・行かないデジタル窓口を実現します。

- ・申請書記入の負担軽減、関係窓口の連携強化による待ち時間の解消、証明書自動発行機（行政キオスク端末）の普及拡大により書かない・待たない・行かないデジタル窓口の実現に取り組みます。

### ■市民情報を守る情報管理体制を実現します。

- ・DXの推進にあわせた新たなルールづくりとして高浜市個人情報保護条例の見直しに取り組みます。
- ・全ての職員が個人情報保護など、情報管理スキルが向上するよう研修・教育体制の構築に取り組みます。

## 目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)

-----  
[関連する個別計画等]  
-----





目標(4) 情報発信・シティプロモーション

まちのことを知って、  
高浜市を応援したいという思いを育みます

この施策が目指すまちの姿

- ◇情報を受け取る側の立場に立ち、まちの情報がいつでもどこでもわかりやすく得られるようになっています。
- ◇「知っていてほしい」情報が、確実に市民の皆さんに届くようになっています。
- ◇まちのことが多くの人に伝わり、高浜市を「応援したい」、高浜市に「行ってみたい」「住んでみたい」という人（ファン）が増えています。

この目標分野の現状と課題

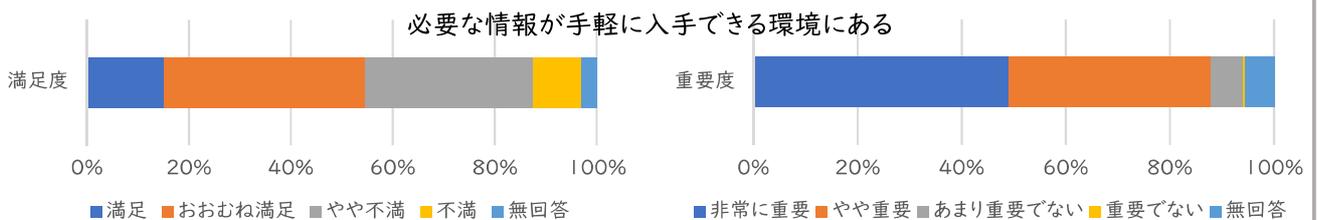
《現状》

- ◆市の情報の入手環境については、40代までは満足傾向にあるが、50代以上は満足傾向にある方の割合が50%を下回っています。
- ◆スマートフォン等の普及など、情報を得るツールが進化・多様化する中、情報の取得方法も紙媒体からデジタルへと変わってきています。
- ◆市の情報は身近に感じづらく、市民にとって興味や関心をもちにくい傾向にあります。
- ◆20代・30代の方に比べ、50代以上の方は、まちの魅力発信はあまり重要ではないと感じています。

《課題》

- ◇市民の関心や社会のトレンドにアンテナを張り、ニーズをくみ取る必要がある他、発信者側の情報発信に対する意識やスキルを向上させる必要があります。
- ◇電子媒体を使いこなせる世代にはより情報が伝わるよう、電子媒体に不慣れな世代に対し情報格差が生じないように、発信する内容や発信媒体の工夫、電子媒体を使いこなせるようになるような取り組みが必要であります。
- ◇高浜市に関わったことがある人など、関係人口の増加を目指し、高浜市のファンを増やして行くことが今後必要となってきます。
- ◇人と人のつながり、コミュニケーションを通じた発信で市民の満足感・納得感を高めていくことも大切です。

《令和3年2月に実施した市民意識調査結果より》



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
満足傾向	76.9%	76.4%	65.6%	62.5%	47.4%	48.6%	47.5%
不満傾向	23.1%	23.6%	34.4%	37.5%	51.3%	48.6%	43.1%

※年齢や回答が無回答の方を除く数値です。

## こんなことに取り組みます

### ■ まちの情報をわかりやすく発信します。(人材育成)

- ・ 市民一人ひとりが広報マン、まちぐるみで情報を発信していく風土と仕組みを構築します。
- ・ 職員の情報発信に対する意識とスキルを向上させ、分かりやすい情報発信に努めます。

### ■ 「知ってほしい」が、確実に届く環境を整えます。(発信方法)

- ・ ICT技術の活用など、その時代にあった情報発信媒体を取り入れ、情報の種類や受信者に適した発信方法で、タイムリーな情報提供に努めます。
- ・ 市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、情報交換を活発に行い、情報のニーズをくみ取るとともに、つながりを通じて情報を発信します
- ・ 高浜市の情報はここを見ればわかるという情報のプラットフォームを整備します。

### ■ 高浜市を応援したくなるよう、まちの魅力を高めます。(ファンづくり)

- ・ これまで磨き上げてきた地域の資源の可能性を研究し、さらに磨き上げます。
- ・ 新たな地域資源、魅力の発掘・開発に取り組みます。
- ・ 市民が高浜市（ふるさと）の良さを再発見できるきっかけをつくります。

## 目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)
		
		
		

[関連する個別計画等]





目標（5）子育て・子育て

多様な主体が子育て・子育てを支えます

この施策が目指すまちの姿

- ◇安心して子どもを産み育てられる環境が整っているまちになっています。
- ◇多様化する生活スタイルの中で、子育て・子育てを通じて家族・地域のきずなを深めていくまちになっています。
- ◇子育て・子育てを支える人材・環境が整えられて、子育てに孤立しないまちになっています。

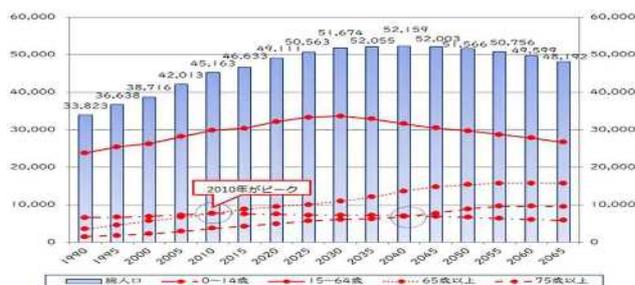
この目標分野の現状と課題

《現状》

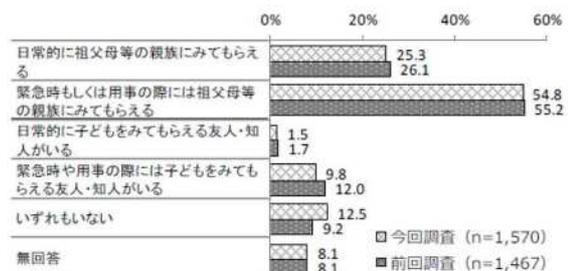
- ◆就業者数の増加に伴い女性割合も増加しているため、今後も子育て支援に対するニーズの増加が想定されます。
- ◆将来的には子ども数は緩やかに減少する見込みである。
- ◆子育てを手助けする親族や知人がなく、孤立するおそれのある人が約1割程度います。

《課題》

- ◇多様化する子育てニーズに応じた支援が必要となります。
- ◇女性の就業割合の増加による保育ニーズの増加と、子ども数の減少による事業規模縮小とのバランスを考慮した柔軟性のある子育て支援が必要です。
- ◇子育てを支援する子育て・子育てを支援・見守る人材の確保・育成が必要です。
- ◇子育てを頼れる人がいない人が地域の中で孤立することのないように、ICTを活用した、子育て世帯と施設、地域等の多様な関係者をつなげる仕組みを構築していく必要があります。



総人口・年齢区分別人口の推移・推計「施策動向調査」より



日頃、おきさんの面倒をみてもらえる親族・知人の有無「第2期高浜市子ども・子育て支援事業計画」より

## こんなことに取り組みます

■ 「高浜市子ども・子育て支援事業計画」に沿って、子育て支援の充実を図り、待機児童のない保育環境とします。

- ・教育・保育ニーズを適切に把握するために定期的な意識調査に取り組みます。
- ・定期的に更新する「高浜市子ども・子育て支援事業計画」の策定に取り組みます。
- ・教育・保育ニーズに対応した、多様で柔軟な保育サービスの提供に取り組みます。
- ・ニーズに応じた地域子ども・子育て支援事業等の実施に取り組みます。

■ 子育て・子育てを支える人材の育成を図り、多様な主体が子育てを支える環境を実現します。

- ・子育て・子育てを支える人材の発掘に取り組みます。
- ・様々な人材が子育て・子育てに関わる環境の創出に取り組みます。
- ・ICTを活用して、子育て世帯と施設、地域等をつなげる仕組みを構築します。
- ・子育て中の親子が孤立しない環境づくりに取り組みます。
- ・安全で安心できる場所を多くの子どもや保護者が利用できるように取り組みます。

## 目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)

[関連する個別計画等]





## 目標（6）学校教育

### 自分・仲間・社会の幸せのために

### 学び続ける子どもを育みます

#### この施策が目指すまちの姿

- ◇自ら学び、生きる力を身に付けている子どもが育っています。
- ◇自分も周りも大切にしながら、人・もの・ことに積極的につながる子どもが増えています。
- ◇自分を知り、持ち味を発揮している子どもが自分らしく輝いています。
- ◇なりたい自分に向かって学んでいる子どもが育っています。

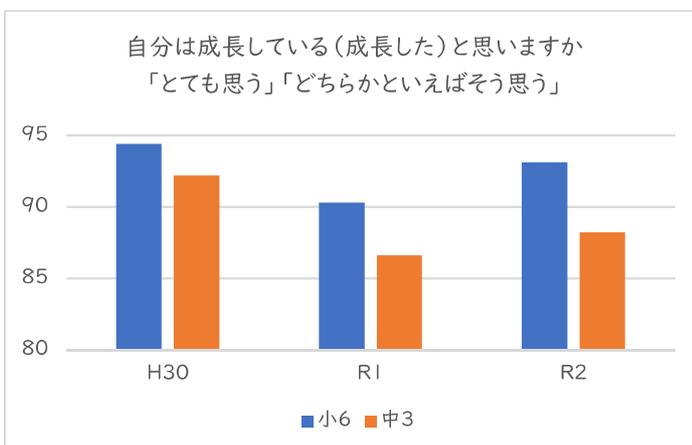
#### この目標分野の現状と課題

##### 《現状》

- ◆学習指導要領では、教育の普遍の部分（知・徳・体の調和のとれた発達）を大切にすることとなっています。
- ◆教育を取り巻く環境は、情報化やグローバル化の進展など変化が激しい時代にあります。
- ◆中学生になると、「自分は成長していると思う」生徒の割合が低くなる傾向にあります。

##### 《課題》

- ◇学校教育では、常に社会の変化に対応した取組が求められています。
- ◇変化の激しい時代においても、試行錯誤を繰り返しながらも、子どもたちが自分らしく生きていく力を育成する必要があります。
- ◇人と直接関わることによさに気づき、多くの人との触れ合いの中で成長していくための取組が必要であります。
- ◇自分の主張だけでなく、相手の意見も尊重し、合意形成を図りながら仲間と共に様々なことに挑戦していく意欲を育む取組が求められます。
- ◇自分のよさを理解し、自己肯定感の向上に向けた取組が必要であります。



【主体的・対話的で深い学びを重視した学習風景】

## こんなことに取り組みます

### ■生きる力を育む質の高い教育活動を実施するために。

- ・学習指導要領に即した基礎学力の定着を進めます。
- ・主体的・対話的で深い学びを重視した学習を推進します。
- ・人・もの・こととの関わり合いを重視した教育活動を行います。
- ・キャリア教育の充実に向けた取組を進めます。
- ・道徳教育、情報モラル教育など心の教育を推進します。
- ・一人一人が持ち味を発揮できる集団づくりを推進します。
- ・SDGs についての学習を推進します。

### ■一人一人を大切にしたいきめ細やかな教育のしくみを創り出すために。

- ・異校種間・異学年間の交流を充実し、12年間の学びや育ちをつなげます。
- ・特別な支援を必要とする児童生徒への個別支援の充実に向けた取組を推進します。
- ・小学校において、教科担任制の積極的な取組を推進します。
- ・一人一台タブレットを中心としたICT機器のより有効的な活用を進めます。

## 目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)
		▶
		▶
		▶
		▶

[関連する個別計画等]





## 目標（7）生涯学習・文化・スポーツ

### 学びで人がつながり合い

### みんなでまちを支える力を育みます

#### この施策が目指すまちの姿

- ◇学びへの好奇心や学ぶ意欲をかき立てるような体験に出会い、チャレンジする市民（子ども）が増え、知性や感性が育まれています。
- ◇「教え合う」「学び合う」といった学びを通じたコミュニケーションにより、学びの成果が活かされ、学び・人の輪が広がっています。
- ◇まちの魅力や自慢が市民の共有財産として次の世代に継承され、地域に息づいています。

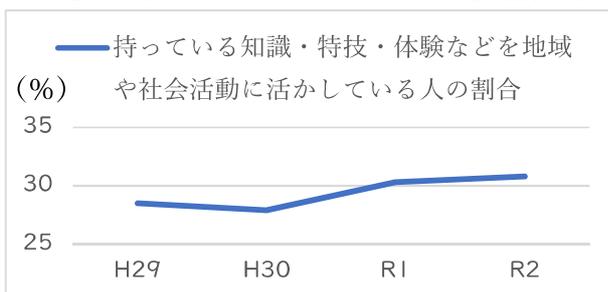
#### この目標分野の現状と課題

##### 《現状》

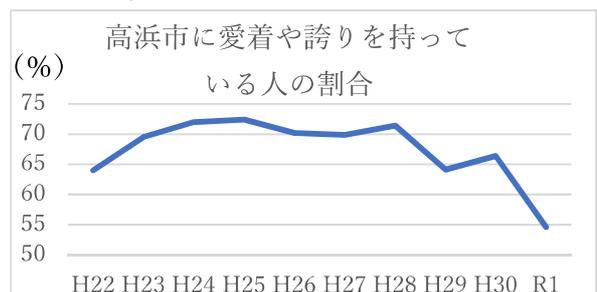
- ◆生涯を通じた学ぶ機会について、約 85%が重要と考えており、学びの好奇心や意欲を灯し続ける必要性が認識されています。（出典：高浜市総合計画審議会（第1回）参考資料「施策動向調査について」より）
- ◆皆と一緒に語り合うことや体を動かすことの大切さが認知されています。
- ◆個人の知恵・特技・体験などをまちづくりに活かしていくことが望まれています。
- ◆「このまちが好き」と感じる人の割合が減少傾向であり、まち固有の歴史や文化、風土への関心が希薄になることが危惧されます。

##### 《課題》

- ◇ライフスタイルの多様化、デジタル技術の進展など目まぐるしく変化する社会情勢の中で、好奇心の対象やニーズも変化しています。「生き抜く知恵」を身につけるため、楽しく学ぶ機会が必要です。
- ◇一人ひとりの学びの力を波及させ、多様な主体と連携し、まちを支える力に成長させる必要があります。
- ◇自分の住んでいるまちの歴史や文化、現状を知ることで愛着・誇りを高め、一人ひとりがまちの課題を自分事として考える意識啓発を行っていく必要があります。



（出典：「市民意識調査」より）



（出典：「市民意識調査」より）

## こんなことに取り組みます

### ■「知りたい」「行動したい」といった想いを応援・下支えします。

- ・皆さん（特に子ども）の「知りたい」を支えるため、知性や感性を育む多彩な学習活動を支援します。
- ・学習活動を通じた文化創造および発信に取り組みます。
- ・子どものチャレンジする意欲を応援し、未来の高浜市を担う人材育成を行います。

### ■個人の知恵・技能をまちづくりに活かし、学びを通じまちの力を底上げします。

- ・「人に教えることでさらに自分の理解を深める」といった学びの相乗効果や、学んだ内容をまちづくりに活かし、広げることで、まちの底力を向上します。
- ・「する・みる・ささえる」といった多様な視点から、「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」活動ができることを基に、スポーツ・レクリエーション活動を推進します。

### ■まちの魅力・良さを掘り起こし、我がまちへの愛着と誇りを育みます。

- ・歴史・文化・伝統・産業等の市の礎を学ぶことで、まちへの興味・関心や愛着を高めます。
- ・学びや体験を「知る」「活かす」とともに、次の世代へ「つないでいく」という意識啓発を行います。

## 目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)
		
		
		

〔関連する個別計画等〕





## 目標（８）都市基盤

### 暮らしを支える持続可能な都市を形成します

#### この施策が目指すまちの姿

- ◇市民が安全・安心・快適に通行できる道路が整備されています。
- ◇公園が安全で快適に利用できる地域の憩いの場となっています。
- ◇快適な生活の維持に必要な不可欠なライフラインとして、すべての市民に安全安心な水道水の供給ができています。
- ◇良好な住環境が形成されています。

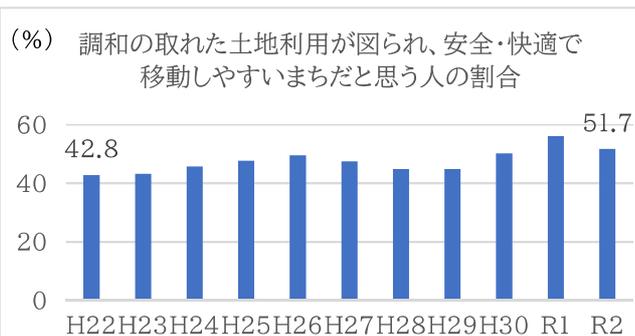
#### この目標分野の現状と課題

##### 《現状》

- ◆本市には、幹線道路から住宅街の生活道路まで多様な道路があり、橋りょうを含め、快適な生活や地域経済を支える重要なインフラですが、その多くで老朽化が進んでいます。
- ◆公園は、地域の憩いの場として重要な場所ですが、公園施設の老朽化が進んでいます。
- ◆快適な生活の維持、災害時における重要なライフラインである水道施設、配水管も老朽化が進んでいきます。
- ◆昭和 56 年以前に建築されたもののうち、耐震性が不十分な住宅が約 1 割存在しています。

##### 《課題》

- ◇道路や橋りょう、公園などについては、継続的な修繕を行い、計画的な維持管理や更新、長寿命化を図っていく必要があります。
- ◇災害時でも安全安心な住環境が確保できるよう、配水管の耐震化を長期的な観点で、計画的に整備していく必要があります。
- ◇住環境の向上を図るため、まちづくり施策に基づく土地利用の誘導や、安心・安全に向けた建物管理を促す必要があります。



※出典：市民意識調査結果より（毎年実施）

##### まちづくりの満足度（おおむね満足以上の人の割合）

	H20.8	R2.7
良質な住環境	47.9%	63.7%
潤いの空間	51.2%	64.3%
下水道整備	58.2%	69.9%

##### まちづくりの重要度（やや重要以上の人の割合）

	H20.8	R2.7
良質な住環境	83.5%	91.4%
潤いの空間	82.1%	88.6%
下水道整備	81.8%	89.8%

※出典：市民意識調査結果より（総合計画策定時調査）

## こんなことに取り組みます

### ■道路施設などの計画的な維持管理を実施します。

- ・老朽化する市道の舗装の修繕を計画的に行い、長寿命化を図ります。
- ・橋りょうの点検・修繕を計画的に行い、長寿命化を図ります。
- ・歩行者の安全確保のため、歩道設置等の道路の改良に取り組みます。

### ■公園施設の計画的な維持管理を実施します。

- ・公園施設の更新を行い、危険施設の除去、長寿命化を図ります。
- ・地域の関係団体等と協働で、花壇等の身近な場所の緑の充実に取り組みます。
- ・公園施設の更新の際には、地域のニーズに対応した施設更新を行うとともに、災害時の避難場所になるような配慮、工夫に取り組みます。

### ■水道施設の計画的な更新を行い、安全安心な住環境を整備します。

- ・老朽化した水道施設、配水管の計画的な更新をおこない、水道水の安定供給に努めます。
- ・配水管の耐震化を進めて災害時の危機管理体制を整備します。

### ■良好な住環境の形成を促進します。

- ・計画的な土地利用の規制・誘導を図ります。
- ・住宅の耐震化率の向上を図るため、耐震施策を推進します。

## 目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)
		▶
		▶
		▶
		▶

[関連する個別計画等]





## 目標（9）産業

### 地域経済を活性化し、元気なまちをつくります！

#### この施策が目指すまちの姿

- ◇市内の企業が持続的に発展することで雇用が安定しています。
- ◇優良農地を保全しながら、新規創業や市内への進出企業が増加しています。
- ◇伝統技術の継承が図られ、地場産業が振興しています。

#### この目標分野の現状と課題

##### 《現状》

- ◆高浜市商工会が実施する経営支援件数は、近年は増加傾向にあります。
- ◆市内の法人数は年々増加傾向にあります。商業・工業の事業所数はおおむね横ばいとなっています（別途分析中）。

##### 《課題》

- ◇今後も地域産業を継続的に発展させていくために、商工会と連携し、経営支援をする必要があります。
- ◇感染症等による景気低迷や大規模自然災害への防災対策、高齢化、デジタル化などによる環境変化に対応するために支援をしていく必要があります。
- ◇新規創業や企業の誘致、既存企業・事業者の事業機会の拡大を促す必要があります。
- ◇地場産業を振興するため、行政と業界がそれぞれの役割を担い、連携する必要があります。



(出典:愛知県)



(出典:第6次総合計画アクションプラン)

## こんなことに取り組みます

### ■市内の企業が持続的に発展していくための取り組みを進めます。

- ・商工会と連携して経営支援、事業継承支援などに取り組みます。
- ・融資制度、補助制度を活用した、資金融通の円滑化支援などを行います。
- ・企業を取り巻く環境変化に対応するため、引き続き企業支援のあり方を検討します。

### ■新規創業や市内への進出企業を増やします。

- ・商工会と連携し、創業支援施策を行います。
- ・新たな事業を創出、また企業が進出しやすい環境の構築など、産業の活性化につながる取組みを推進します。

### ■地場産業の振興を図ります。

- ・災害による風評被害の払しょくや伝統性を活かした商品開発、ブランド化など、地場産業である三州瓦の優位性やデザイン性をPRするとともに、三州瓦を屋根や庭園に使用した場合の補助金制度により三州瓦の普及を図ります。

## 目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)
		▶
		▶
		▶

[関連する個別計画等]





## 目標（10）環境

### 人と地球にやさしいきれいなまちをつくります

#### この施策が目指すまちの姿

- ◇市民一人ひとりがごみの分別方法を理解しごみの減量・適正な分別が実施され、ごみの排出量が減少しています。
- ◇ごみのポイ捨てや不法投棄のないきれいで住みやすいまちになっています。
- ◇温室効果ガスの削減が進み、環境負荷の少ないまちになっています。

#### この目標分野の現状と課題

##### 《現状》

- ◆市民1人一日当たりのごみの排出量は、横ばい傾向にあります。

##### 《課題》

- ◇さらなるごみの減量に向けて、5R（発生抑制・購入拒否・再使用・修理・再利用）を積極的に推進し、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会から、限りある資源を有効に活用するための循環型社会へ転換する必要があります。
- ◇きれいで住みやすいまちを実現するために、環境美化推進員と町内会などの団体が連携して、環境美化活動に努める必要があります。
- ◇地球温暖化の要因となる温室効果ガスの排出を抑制するために、低公害車の導入や太陽光発電などの再生可能エネルギーを普及する必要があります。

1人一日当たりごみ排出量の推移(g)



## こんなことに取り組みます

### ■ごみの減量と再資源化を推進します。

- ・生ごみ処理機の購入に対しての補助を継続するとともに、食品ロスの削減に取り組みます。
- ・ごみ分別便利帳を作成・配布することにより、正しいごみの分別方法を理解し、正しく分別してもらえるよう啓発を行います。また、同時にごみの分別の見直しを行います。

### ■ポイ捨てや不法投棄のないきれいなまちを構築します。

- ・不法投棄をなくすため市民団体や地域と連携し、パトロールによる監視体制を強化します。
- ・環境美化推進員の活動の活発化やポイ捨て禁止看板の設置など、ごみのないきれいな環境の整備・美化に取り組みます。

### ■環境負荷の少ないまちをつくります。

- ・市の事業及び事務に伴う温室効果ガスの削減を進め、率先して脱炭素化に取り組みます。
- ・再生可能エネルギーの利用促進や省エネルギー促進のため、公共施設等のLED化、省エネ型機器・低公害車の導入など省エネ対策を推進します。

## 目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)
		
		
		

【関連する個別計画等】





## 目標（11）福祉

### その人らしく安心して生活できる 地域共生のまちづくりを進めます

#### この施策が目指すまちの姿

- ◇高齢、障がい、子ども・子育て、生活困窮などの様々な課題を抱える人が包括的な支援を受けながら、なじみの地域で暮らしています。
- ◇社会的につながりが弱い人が、地域でその人らしくいきいき活躍できるよう、社会とつながるしくみができています。
- ◇支える側・支えられる側という関係を越えて、地域の人々が丸ごとつながり、一人ひとりが生きがいをもち、助け合う地域をつくっています。

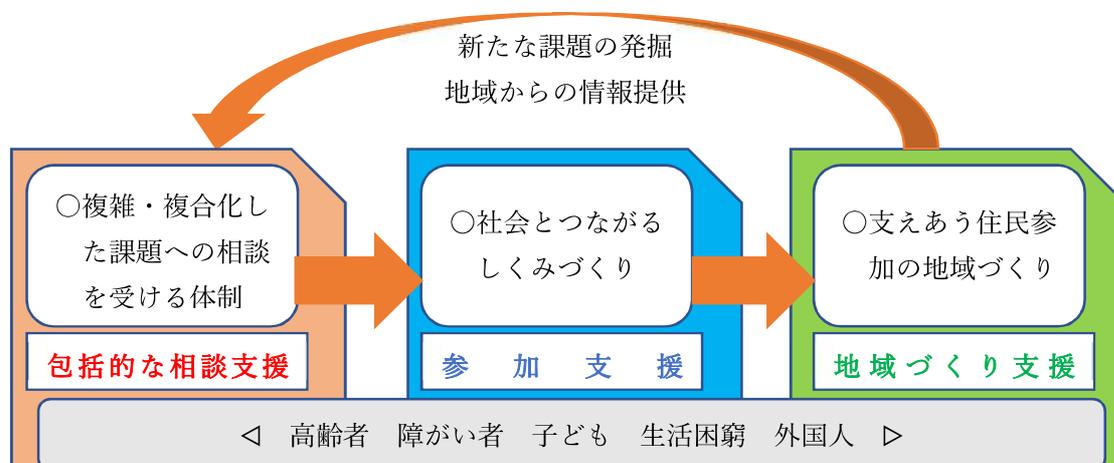
#### この目標分野の現状と課題

##### 《現状》

- ◆社会構造の変化により、様々な課題が絡み合う「複雑化」、複数の分野にまたがる「複合化」した課題を抱える世帯が増えています。
- ◆地域とつながる機会の減少により、社会的に孤立している人が増えています。

##### 《課題》

- ◇複合的な困りごとに対する包括的な支援体制の強化が求められています。
- ◇地域のつながりが希薄化する中、地域とのつながりをつくり、自立して生活できる環境が求められています。
- ◇福祉の担い手を応援し、地域の福祉力が向上する支援が求められています。



## こんなことに取り組みます

### ■包括的な相談支援体制による支援を拡充します

- ・複合的な困りごとの相談をいきいき広場全体でサポートし、関係機関や地域支援関係者との連携を図りながら支援の強化に取り組みます。

### ■社会参加支援の充実を図ります

- ・ひきこもり等の社会的に孤立している人に、自立に向けた伴走型の支援に取り組みます。
- ・社会とのつながりづくりに向けて、障がいのある人、認知症の人、一人暮らしの高齢者などの、社会参加機会の拡充に取り組みます。

### ■地域福祉活動を支援し、支えあう住民参加の地域づくりを進めます

- ・災害時など、もしもの時に備えて、要支援者の実態把握を継続的に行い、地域の助け合いのための仕組み・関係づくりに取り組みます。
- ・まちづくり協議会や民生・児童委員、ボランティアなど地域の福祉に関わる支援者と連携して、地域住民による見守り体制の充実を図ります。
- ・地域住民の知識や経験を活かせるボランティア活動の魅力を積極的に発信し、担い手の発掘・養成に取り組みます。

## 目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)
		▶
		▶
		▶

[関連する個別計画等]





## 目標（12）健康

### 一人ひとりと地域全体の健康づくりを応援します

#### この施策が目指すまちの姿

- 若いうちから、一人ひとりが自身の健康状態に関心を持ち、健康づくり活動へ積極的に参加しています
- 生活習慣病や認知症などの予防活動を通じて地域に出かける機会が増え、生きがいや役割を持ちながら、心身ともに健やかで自分らしく暮らしています

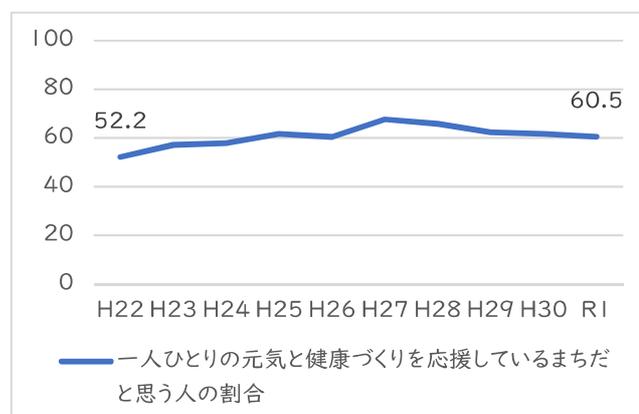
#### この目標分野の現状と課題

##### 《現状》

- ◆「一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思ふ人の割合」は6割ですが、近年は減少傾向にあります。
- ◆認知症高齢者の数は年々増加し、2025年には高齢者の5人に1人が認知症になると推計されています。
- ◆新型コロナウイルス感染症の流行により、市民生活や経済活動に大きな制約を受けています。

##### 《課題》

- ◇市民が自分自身の健康状態を把握するとともに、ニーズに合わせた健康情報の提供や、健康づくりに取り組みやすい環境が必要になります。
- ◇高齢化が進展する中で、認知症の予防や早期発見に努める必要があります。
- ◇行動自粛などによる生活習慣の変化に起因する健康リスクの増加が予想されます。



## こんなことに取り組みます

### ■誰もが健康に関心を持ち、継続的に健康づくりに取り組める環境を作ります

- ・ 定期的な健診や検診により、自身の健康状態を確認することで、健康づくりへの興味・関心を促進します
- ・ 心身の健康について気軽に相談できる環境づくりに取り組みます

### ■認知症などの予防活動に取り組み、生涯現役のまちづくりを進めます

- ・ 予防啓発事業を充実させることにより、積極的に認知症、生活習慣病、フレイル等に取り組める体制をつくります
- ・ 高齢者の閉じこもりを予防し、通うことのできる居場所づくりに取り組みます

## 目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)

[関連する個別計画等]





目標（13）防災・防犯

防災・防犯の意識が高いまちづくりを目指します

この施策が目指すまちの姿

- ◇市民一人ひとりが、防災・防犯に対する意識を高め、安全・安心に暮らせるように取り組んでいます。
- ◇市民や地域等に「自助」「共助」の重要性が認識され、「公助」を含めた相互の連携を強化し、災害に強いまちづくりを進めています。
- ◇市民の生命と財産を守るため、地域と行政が連携し、犯罪や交通事故を防ぐ取組をし、安全・安心なまちづくりに取り組んでいます。

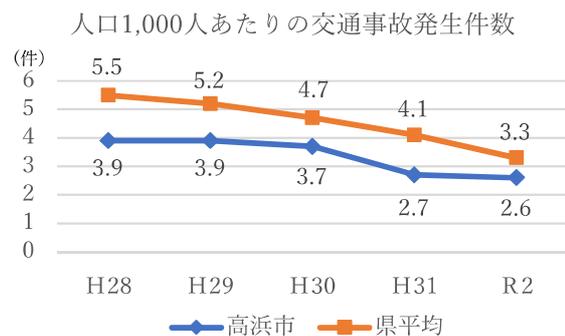
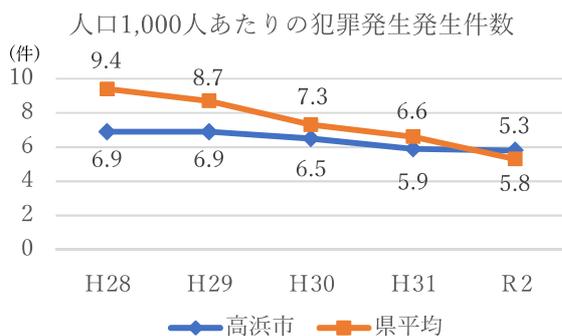
この目標分野の現状と課題

《現状》

- ◆市民意識調査では、今後の重要施策として「地震や水害などの防災体制」が第1位となり、市民の防災意識が高まっています。
- ◆市内の刑法犯認知件数及び交通事故発生件数は年々減少傾向にあります。

《課題》

- ◇南海トラフ地震等の大規模災害に対し、市民一人ひとりが備える「自助」の重要性が認識されるように周知する必要があります。
- ◇地域等に対して「共助」の重要性が認識されるような取り組みをし、地域防災力の向上に努める必要があります。
- ◇市民の防災意識の高まりから、市の防災対策への高い満足度が求められています。
- ◇市内在住の外国人の割合は約8%と高く、外国人に対して防災・減災の重要性が認識されるような取り組みをする必要があります。
- ◇防犯・交通安全対策については、引き続き地域や関係機関と連携して犯罪抑止や交通事故防止に取り組む必要があります。



## こんなことに取り組みます

### ■安全安心に暮らせるまちづくりを実現します。

- ・市民一人ひとりの防災・防犯意識向上のため、防災・防犯に関する情報の周知徹底に取り組みます。
- ・市民が災害時に備えてマイ・タイムライン（避難行動計画）を作成するよう取り組みます。
- ・地域等に「共助」の重要性が認識されるような防災事業に取り組みます。
- ・大規模災害に備え「公助」における整備の改善・更新に取り組みます。

### ■災害に強いまちづくりを実現します。

- ・地域防災リーダー養成を推進し、自主防災組織の強化に取り組みます。
- ・消防団の人員確保と装備の充実を図り、地域防災力の向上に取り組みます。
- ・地域や消防団と連携し、地域における防災体制の強化に取り組みます。

### ■地域と行政が連携し、犯罪抑止、交通事故防止を図ります。

- ・「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」に基づき、犯罪抑止活動に取り組みます。
- ・地域と行政が連携し、交通事故防止に向けた交通安全対策に取り組みます。
- ・防犯カメラ・防犯灯の設置や地域主体のパトロールの支援に取り組みます。

## 目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)

-----  
[関連する個別計画等]  
-----



